

世界は今まさに創造の途上 神の願い実現する一役担う

自分を正当化せずにはいられないのが人間です。自分が気に入らばよし。気に入らなければ、神さえも悪神邪神とけなして、はばかりません。しかし、思い通りに事が回らなくなり、生活が危機にひんした時、「いのちの成り立つ根源をよく考えてみよう」という声、私の、そして皆さんの耳元に届けられるのです。状況が厳しさを増すのは、人間の都合を超えた天地の都合で舞台が変わるからです。そこでは、神の願い(全ての立ち行き)を実現するための新たなお役目を見いだせるかどうか、カギとなるのは「日々の生活において、いかに問い、いかに応えるか」に止めています。

あるといえそうです。このたびの新型コロナウイルス感染症による社会状況は、まさにそうではないでしょうか。この世界が、全知全能の神による完成品であれば、今さら人間が何かを足す必要などないわけでは。しかし、現実をよく見れば、この世界は完全無欠どころか、刻々変化してやまない、今まさに創造の途上にあるというほかありません。だからこそ、人間も一役を担って時々刻々の創造に参画しているのです。神が人間を生み出さざるを得なかった以上は、神が人間に「よろしく頼む」と願いをかけておられるのだと、私はそう受け止めています。

ある夏休みの日、衝撃の体験をしました。地域の子どもたちを引率して、缶コーヒの製造工場を見学した際、その製造工程で働くのはロボットのみで、人間は完全にシヤットアウト。案内の係員によれば「人間が携わると異物を持ち込むリスクが生じるので」とのことでした。

ばい菌ゼロ、リスクゼロを合言葉に、異物とリスクを退治し消去する合理追求の行き着く先を、目の当たりに見せ

つけられた気がしました。人間自体が最大のリスク要因だという、この指摘に出合っても、自分自身は無害で健全な側の人間だと信じて疑わず、そうでない側の人(少数派)の居場所を奪うことが、日常さまざまな場面で繰り返されています。

科学教育が広く行き届いた現代では、感染症を「正しく恐れること」は、さほど困難ではないはずですが、連日の報道のあおりを受けて、むや

感染症に「心の目」を開くために

「いのち」育ち合う世界開く

京都府鹿ヶ谷教会長 松村 眞治先生 (77歳)



みに不安や恐怖心をかき立てられている現状は、ウイルスの危険性ととも、未知の敵を前にして、何をすべきか分からない人心の方が危険にも思えます。ストレスが高まるにつれ、自分自身を支えきれず人を責め、感染者をたたき、自粛警察というもて現れました。だからこそ、「心の切り替え」の練習が不可欠だとつくづく思います。誰が感染してもおかしくない。一定の割合で、誰かが引き受けなくて

はならないとすれば、あの人が私の分も引き受けてくださったのだという、「心の目」が開けなくてはいけないのでしよう。そのための練習は、「いのち」を拝むことから始めます。「いのち」ある万物は、新陳代謝をし、そして次世代を生み残します。この営みはキヤッチボールにも似て、必ず相手があってこそ可能なのです。「いのち」はどのように生まれ、どのように生きているのか。自分が生きていくという以前に、「どうぞ生きてください」と願ってやまない天地の祈りと願いがある。願われている私、許されている私です。

伸びしろの潜在的可能性を引き出し合い、育ち合うならば、どれほど「違い」があろうとも支障にならない、差別なき世界が必ず開けてきます。今ここにある「いのち」は、朝一番、目が覚めてすぐに、自分の「いのち」を賜物として拝みましょう。そして出会う人ごとに、「あなたも、いのちを頂かれましたね」と喜びを共にします。自分が気に入る人らぬで、選別しないのです。そこから始めて、一つの「いのち」に込められた

神ならぬ制約だらけの人間 育ち合う幸福への道は一つ

金光大神のまなざしは、切り分けられたどちらかを選ぶのではなく、切り分ける以前の自然なる世界にある、と私は思います。もつとも、草ぼうぼうの自然を理想とするのでは違つて、そこに人間も一枚加わってフォロイし合いながら創造していく世界を目指しておられるのでしょうか。

まだ未熟であり、それ故にいかようにも変身できる豊かさに富んでいます。「いのち」をフォロイし合う関係を深めていくことは、信心ならぬはの営みではないでしょうか。

新型コロナウイルスも、また自然なる世界から生まれ人間世界の国境をはじめ、民族、身分、階級などのさまざまな仕切りを吹き飛ばすような体験をもたらしました。生きていくことは、誰にも代わってもらうことはできない、自分で引き受けていくしかない事柄です。それぞれの

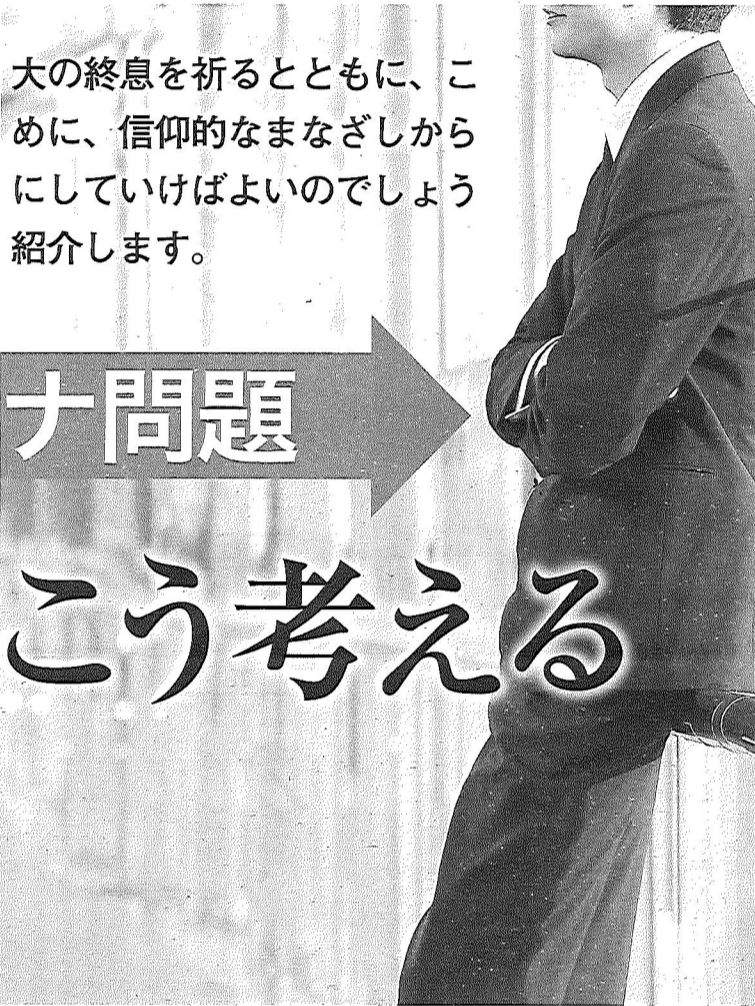
幸福への道はこの一つなので、すから、厳しければ厳しいほど、その現実を受容するに至るまでの悪戦苦闘が、個性に磨きをかけてくれます。鼻持ちならぬと嫌われる肥やしも、「いのち」の養いとしていけば、豊かな実りをもたらします。

私は、生まれつき足に障がいがあります。以前、岡山盲学校の澤田隆志先生(生まれながら一度も光を見たことがないとおっしゃっていた)と点字講習会で同席した時、失

ったものを救えるのではなく、残された能力と可能性を引き出すことに楽しみを見いだしていると、ご体験をお話しくださいました。

不自由が即、不幸だとは決め付けられません。神ならぬ人の身は制約だらけですが、それを「いのち」の育ち合いに生かしていけるかどうか、

旧に復する努力は必要ながら、ここからの創造にどう結び付けていくのか。私のところでも、あなたのところでも、見落としてきた部分への気付きが起動力となり、新しい日常が生まれてくる、そのようなコロナ後の世界を築しめ、と神様は仰せになつていと頂いています。



この終息を祈るとともに、はじめに、信仰的なまなざしから紹介しします。

大問題

こう考える

不安と不満の厳しい新生活 この経験を将来の糧にする

私が寮監を務める金光教東京学生寮の学生たちも、新型コロナウイルスのあたりを受けています。新入生は入学早々、大学に通うことなく、授業はインターネットを使って行われました。せっかくながら寮生活に、すぐに県外の実家に戻る学生もいました。

そういう状態では、新しい人間関係も築けず、新たな環境になじめないようでした。大学3、4年生は、就職活動に直接響き、なかなか就職先が決まらないようです。また、大学ごとにコロナへの対応に差があるようで、困惑している学生もいます。

「今、思い描いていたようなキャンパスライフが送れず、普通にあつて当たり前と思っていた授業さえもないという現実に出合ったことで、当たり前前かが当り前ではないと気付けたのではないかな。

その現状に、いくら不満を漏らしても、厳しい現実を変えられない。できないことを目を向けると、悪循環で余計落ち込んでしまつたらう。そこで、この経験は自分自身を成長させ、必ず将来の糧になると思つて、受けていこう。そのように自分の思いを定めていく工夫が大切だよ」

実は、こうした内容はコロナ以前から学生たちに話してきました。一言で言えば、何事も「人間のものさし(価値観)」だけではなく、金光大神の信心に基づいた「神様のものさし」を持つてもらいたいということ。これは、やがて巣立つていく学生たちに、社会でたくましく生きていってほしいと願つてのこと

「人間のものさし」には、価値を測る目盛りがあり、ます。ですから「長・短」「大・小」「優・劣」などの指標が



金光教東京学生寮寮監

辻井篤生先生 (61歳)

「神様のものさし」持つ人に

不安な学生生活を送る若者たちへ

新型コロナウイルスの感染拡大からの神様のお導きを頂けた今、どのような在り方を大切か。2人の金光教教師のお話を



新型コロ 私たちは

お金が多くある、より立派な家や車、生活用品があるなど、他人と自分を比べることで得られる幸せではなく、絶対的な安心の幸せを得る「魔法のものさし」でもあるといえそうです。

お墓参りの大切さです。先祖様が私の命をつないでいく命ですし、今、この命も食べ物で保っているわけで、動植物の命を頂いての命です。自分が存在するのは当たり前ではないし、決して自分が中心でもないのです。学生たちによく話すのが、

不完全な存在はお互いさま 足りない同士、足し合える

いつも学生と接していて感じるのは、とても優しく、真面目な子が多いことです。一方で、そういう純粋な人ほど、何かにつけて他人と比べてしまい、人の一言一句に心を乱されることが多い。周りになかなか本音が言えず、完璧を求めて頑張り過ぎてしまふ。そして、ちよつとしたつまづきを機に、自信が持てなくなったり、自分自身を責めたりして、負の感情をため込んでしまいがちです。

今、世の中でも、新型コロナウイルスの影響で、自分の思い通りにならないことが多々あると思います。そのような時、「どうせ無理」「でも、私にはできない」と悩んで諦めるのではなく、「だからこそ、何ができるか」とチャレンジしていく姿勢でいたいと、私は思っています。

に、社会でたくましく生きていってほしいと願つてのこと

逆によ越感に浸ることもあるでしょう。そして、損得勘定や役に立つかどうか(有用価値)で差別・排除したりすることも起きてきます。

目盛のない神様のものさし 絶対的な安心の幸せを得る

「人間のものさし」には、価値を測る目盛りがあり、ます。ですから「長・短」「大・小」「優・劣」などの指標が

でも、人間はもともと不完全なものです。だからこそ、「お互いさま」で助け合ふのです。お互いさまと思えば、自分に完璧など求めないし、相手にも求めません。足りない者同士だからこそ、足し合えるのです。

「人に優しく、自分に一番優しく」。自分を本当に大切にすることで、人のことを大切にできます。それには自分に対して実意で正直に、そして、神様の前では全てをさらけ出してほしいと願っています。神様に本音をさらけ出す。神様に本音をさらけ出す。神様に本音をさらけ出す。